

## 自治基本条例を考えるためのワークシート とりまとめ

氷見市の市政全般や行政の役割などで、日ごろ、委員ご自身が感じている問題意識を教えてください。

### ① 問題だなと感じた具体的なシーンや出来事がありますか？

|  |    |
|--|----|
| 執行機関と議事機関が対立しているのではないかと心配しています。  | 備考 |
| 市役所の玄関にポストが出来たことは大変便利になってよかったが、お金がかかるのと、コンビニとかにもポストがあるのだから、人の利便性を考えると必要なのになぜ有利になったのか。  |    |
| 自治基本条例は市の幹部職員は、どのように考えているのか。   |    |
| 少子高齢化が進み、民生委員・児童委員の仕事が年々多くなり負担増となっている。<br>民生委員・児童委員を引き受ける人が少ない(なかなか、いない)   |    |
| 除雪車両の貸与拡充(1町1台希望)  |    |
| 融雪装置の稼働状況が悪い   |    |
| 空き家対策(年々増加している)  |    |
| 市会議員の行動が見づらい   |    |
| 補助金の出し方→結果確認があまりされていないのでは。   |    |
| 実践的な防災訓練が実施されていない。   |    |
| 人口減少と少子高齢化   |    |
| 氷見市の総合計画(第8次氷見市総合計画2012～2021)は、10年後の目指す都市像を明らかにし、その実現に向けたまちづくりの目標や方向性などを総合的に示し、市政運営と基本となっています。<br>一方で、総合計画は市長の任期毎に作成または見直しをする自治体もあります。 |    |
|  |    |

### ② 上記は、何が原因で起こっていると思いますか？

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 感情が表に出て、大成が忘れられているのではないか。            |  |
| もっと、郵便局に働きかけることが必要ではないか。             |  |
| 市民にわかりやすい情報が提供されていない。                |  |
| 民生委員の設置基準が実態に合わない。                   |  |
| 除雪範囲を考慮した車両の貸与になっていない。               |  |
| 融雪装置の稼働コントロールが降雪と合わない。               |  |
| 若い人が定住せず(建ぺい率等の関係)他所へ出て行く。           |  |
| 決まりがない(活動日、時間) それぞれの考え、価値観だけで行動している。 |  |

|  |  |
|--|--|
| 氷見で長期にわたり、大きな災害が起きていないので、市民の危機意識が低い      |  |
| 結婚適齢者の晩婚化とおせっかいさんがいなくなった。婚姻数、出産数の減少      |  |
| 氷見市においては、このことについて市長と議会の考え方の違いが問題となっています。 |  |

③ 上記の問題や原因に対して、行政として、どのようなことに取り組めば改善されると思いますか。

|   |  |
|---|--|
| 対話と時間をかける。  |  |
| 性急にことを進めない。(ある事柄に対しては)  |  |
| 多くの市民が参加できる体制づくり(市民の意見)   |  |
| 県、国への増員申し入れ及び市独自の増員方法を検討してほしい。<br>福祉推進員の増員と報酬の大幅増額  |  |
| 実態に見合った除雪車輛の配備  |  |
| 総量契約(電気料金)ではなく、出来高契約とし、使用量の制限をしない。  |  |
| 定住促進のため建ぺい率の見直しや隣家買取り奨励金の創設<br>リフォーム資金の補充拡充や借り入れ金利補填等   |  |
| 市の職員、市長等と同じように毎日の行動予定、行動記録を公表すればいい。<br>公務とプライベートをなるべく明解に分ける決まりを作る。<br>(自治体基本条例を定め行動のよりどころにする) |  |
| 市の防災計画を見直し、実践的な実働訓練の実行を明記(現在は地域を限定し   |  |
| 婚活に対する強力なバックアップ体制の確立<br>(26年10月、人口減少対策会議が発足しているが具体的な施策はどうなっているのか。)                            |  |
| このような重要な問題についても、委員会で慎重審議し、明確に方向性を示す必要がある。   |  |